

北海道新聞

夕刊
2006年
7月6日 木

発行所
北海道新聞帯広支社
〒080-8655
帯広市西4条南9丁目1-4
帯広市外局番 0155 報道(24)2151
営業(24)2153 販売(24)2155

読者センター
電話 011-210-5888

インターネットで最新ニュース
www.hokkaido-np.co.jp

ご購読申し込みは
0120-464-104

©北海道新聞社 2006

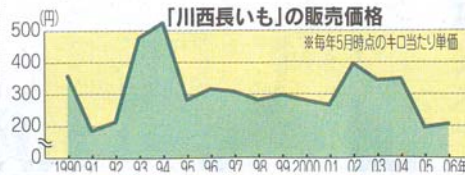
豊作で供給過剰/産地間競争激化

価格低迷に 我慢の農家

ナガイモ



成長を続けるナガイモのつる。ナガイモは長期の価格低迷が続く、農家は価格回復を願っている



ナガイモは高収雑作物と比べても五割程度安物として知られ、近年は道内外で作付面積が増加している。さらに、北海道と青森県の二大産地が〇四年産、〇五年産と二年連続の豊作で供給過剰に伴い、価格下落を招いた。

「川西長いも」は帯広市や芽室町など七市町村で生産され、十勝管内ナガイモ生産量の半分程度を占める。〇四、〇五年産はともに一ヶ当たり二産ほどに減少した。帯広市川西産はとくに一ヶ当たり二産前後で推移し、例年

ナガイモは、農家の収入が十ヶ当たり四十万円程度が損益分岐点とされる。ただ、同五十万円を越えないと、農家に魅力がなく、生産意欲が年産を下回る可能性も指摘されている。

帯広市川西農協では価格下落に備え、農家が毎年、収入の一部を積み立てる制度を取っており、

ナガイモ価格が二〇〇四年末から長期的な低値を続けており、全国生産量の三割以上を占める十勝では、農家が「生産意欲を失いかねない」とあえんでいる。低価格は全国的な作付面積の増加と豊作が要因で、産地間競争も激化している。こうした中、十勝産が他産地より品質が高いことを証明する研究に関係者は期待している。(鬼頭良幸)

十勝産 品質差別化に期待

現在はその貯金を取り崩し、価格が回復するのを待つという状態だ。

研究は文科省の都市エリア産学官連携促進事業の一環。財団法人十勝産

振興機構が実施主体となり、帯広倉庫大などの研究グループが突き止めた。調査は〇五年度から三ヶ年計画で、初年度は検体数が少なかったが、今後は検体数を増やして調査する方針だ。同農協は「他産地との差別化に向け、研究結果が出ればPRしていきたい」と話している。